

授業科目名	教育方法論		科目コード	204037	
開講クラス	こども未来科	コース	保育士・幼稚園教諭	学 年	1 年
担当教員	花盛 和也		実務経験教員 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)		
	<p>長年の高等学校教諭の経験を活かし、教育方法の理論的知識を基に、乳幼児教育で活かせる基本原理が理解でき、実践に繋がる授業展開を実践する。</p> <p>近畿大学九州短期大学通信教育部非常勤講師</p>				
開講時期	前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・通年・特別講義・その他		授業コマ数	30 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	2 単位	
使 用 テキスト1	書 名	幼児教育・保育のための教育方法論			
	著 者	垂見直樹・池田竜介編著			
	出版社	ミネルヴァ書房			
使 用 テキスト2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
<p><授業の目的・目標></p> <p>①これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。</p> <p>②教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>③情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の養成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>					
<p><授業の概要・授業方針></p> <p>乳幼児期の教育(保育所・幼稚園・認定こども園)現場における教育の方法には、小学校以降のそれとは異なる特性がある。その基本原理をしっかりと知識として習得することがまず必要である。そのうえで、乳幼児期の教育現場においてその知識を活かし、遊びを中心とした教育実践を構想することを意識してほしい。学習の過程で得た「知識」を、「実践」につなげるという意識をもって、知識の習得にとどまらない、実践力の向上を目指してほしい。</p>					
<p><成績基準・評価基準></p> <p>・授業態度・試験 80 点以上 優 70 点以上良 60 点以上 可とする</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					

＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞		
授業科目名	教育方法論	
回	授 業 内 容	備 考
1	第1章 教育方法の基礎理論、フレーベルの幼児教育方法	
2	第1章 現代の教育方法に向けて まとめ・演習	
3	第2章 日本の幼児教育方法の歴史（前近代の社会と子育て）	
4	第2章 幼稚園の誕生と初期の幼児教育実践	
5	第2章 幼児教育実践の展開 まとめ・演習	
6	第3章 環境を通して行う教育環境、構成の視点	
7	第3章 保護者の関わり まとめ・演習	
8	第4章 子どもの育ちと物的環境	
9	第4章 アフォーダンスとシグニファニア	
10	第4章 アフォーダンスとシグニファニア まとめ・演習	
11	第5章 子どもの育ちと人的環境	
12	第5章 人的環境としての保育者 まとめ・演習	
13	第6章 子どもの育ちと社会的環境	
14	第6章 保育者と伝統行事 まとめ・演習	
15	第7章 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育環境	
16	第7章 幼稚園の教育課程と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 まとめ・演習	
17	第8章 「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係	
18	第8章 幼稚園教育と「主体的・対話的で深い学び」 まとめ・演習	
19	第9章 幼児理解に基づいた評価	
20	第9章 幼児理解に基づいた評価の方法	
21	第9章 記録の活用 まとめ・演習	
22	第10章 幼児教育・保育における遊び	
23	第10章 豊かな遊びと学びを支える条件 まとめ・演習	
24	第11章 幼児教育・保育における計画と評価	
25	第11章 保育における評価 まとめ・演習	
26	第12章 幼稚園・保育における情報機器(ICT)の活用	
27	第13章 情報活用能力と幼児教育・保育	
28	第14章 幼児教育・保育のこれから	
29	まとめ	

30	テスト	
----	-----	--